

Ünal et al. 2021 - sugiura (2023 年 12 月 18 日 17 時 49 分 51 秒)

Ünal, E., Richards, C., Trueswell, J. C., & Papafragou, A. (2021). Representing agents, patients, goals and instruments in causative events: A cross linguistic investigation of early language and cognition. *Developmental Science*, 24(6), e13116. <https://doi.org/10.1111/desc.13116>

英語母語とトルコ語母語の子供に、4つの意味役割 (Agent, Patient, Goal, Instrument) を含む文を使って、

- 1) 絵の描写
 - 2) 絵の一部を変えて当てさせる
- タスクをした。

産出タスクでは、トルコ語の子供は Agent への言及が少なかった。それは、主語を言わなくてもよい言語だから。

当てるタスクでは、どちらの子も Agent の変化に気づいた。

知覚が先で、言語表現が対応する。ただし、言わなくてよい場合は表現されないこともある。

では、これを、L2 でやってみたら興味深いでしょうね。主語は言わなくてもよい日本語母語の英語学習者だったら、どうなるか。主語を言わなくてはならない英語でどうするか？
逆に、英語母語の人が、主語を言わなくてもよい日本語で話すとしたら？

そこで生じる不自然さは、L2 能力が低いため。

でも、知覚はできているなら、表現できるのでは？

しかし、表現できないのは、表現の仕方を知らないから。